

[修士]

修士学位論文内容要旨
Abstract

専攻 Major	海洋環境保全学	氏名 Name	小林 俊
論文題目 Title	アウトリガーカヌー体験が参加者に及ぼす影響		

本研究では、アウトリガーカヌーを教材とした集中授業「カヌー理論・実習」が参加者の海洋リテラシーに及ぼす影響を検討すること、および、アウトリガーカヌー体験会が参加者の心理的側面に及ぼす影響について検討することを目的とした。アウトリガーカヌーを教材とした集中授業（参加者 25 名）が大学生の海洋リテラシーに及ぼす影響を検討するために、集中授業初日の開講直前と最終日の閉講直後において、集合調査法により海洋リテラシー調査票を用いた質問紙調査を実施した。その他の海洋性スポーツを教材とした授業が参加者に及ぼす影響と比較するために、同様の調査を、複合種目を教材とする「マリンスポーツ実習（参加者 60 名）」及びサーフィンを教材とする「サーフィン実習（参加者 40 名）」において実施した。

アウトリガーカヌー体験会への参加が参加者の気分状態に及ぼす影響について検討するために、体験会の直前・直後において、二次元気分尺度を用いた質問紙調査を実施した。その他の海洋性スポーツの体験会が参加者の気分状態に及ぼす影響と比較するために、シーカヤックの体験会およびカッターの体験会への参加者を対象として同様の手続きにて質問紙調査を行った。

海洋リテラシーに関する調査の統計処理では、授業の相違（3 つの授業）と調査実施時期（授業開直前・授業終了後直後）の、二次元気分尺度を用いた調査の統計処理においては、体験会の相違（3 つの体験会）と調査時期（体験会直前・体験会直後）の 2 要因の分散分析を実施した。

海洋性スポーツを教材とした授業が参加者の海洋リテラシーに及ぼす影響を検討した結果、4 つの下位尺度において交互作用が認められたことから、集中授業における取扱い教材（種目）の違いが、集中授業前後における海洋リテラシーの向上の程度に差を及ぼすことが示唆された。またほぼ全ての海洋リテラシー下位尺度得点がそれぞれの集中授業の前後において有意に向上し、海洋性スポーツを教材とした集中授業が参加者の海洋リテラシーを向上させることが確認された。

海洋性スポーツ体験会が参加者の気分状態に及ぼす影響を検討した結果、「活性度」と「快適度」の 2 つの下位尺度において、アウトリガーカヌー、シーカヤック、カッターの全ての体験会において、体験会直前と体験会直後で有意な得点の向上が認められた。

アウトリガーカヌーを教材として取扱う大学の実習では、他のマリンスポーツ系の授業と同様に海洋リテラシーの向上を期待できることが示唆された。また、アウトリガーカヌー体験会に参加することにより、参加者の気分状態における「活性度」、「快適度」が、シーカヤックやカッターといった種目と同様に向上することが明らかとなった。